

作成者：永井みちる

作成日：2024年3月11日

3月に入り暖かい日が増えましたが、いまだに零度を下回る日も多くあり、春の訪れにはまだ早いと感じる日々が続いています。残りわずかな留学生生活を、ここで出会った人々との時間を大切にしながら過ごしていきたいと思っています。今月は、International Mother Language Day、Blanchard Valley Hospitalの見学、Choir Concert Tourについて報告します。



### International Mother Language Day

先月の報告書で少し触れましたが、2月21日は国際母語デーで、キャンパス内でイベントが開催されました。留学生たちが母国語で歌やダンスを披露し、それぞれの国の文化を伝える良い機会でした。このイベントに先立ち、文化の多様性を学ぶ授業を訪問し、日本語について発表をする機会をいただきました。2人の日本人留学生と共にプレゼンテーションを行い、私は「いただきます」「ごちそうさま」の二つの言葉、そして敬語を担当しました。特に苦戦したのは敬語の説明でした。小学校で学んだ記憶では、日本語には「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」があり、それぞれ目上の人に対して相手を上げる、目上の人に対して自分を下げる、そしてすべての人に対し丁寧に話すことによって相手への敬意を表すという単純な解釈でした。しかし調べていくうちに、私たちが社会の中で身に付けてゆく敬語はそれよりはるかに複雑だということに気が付きました。これは日本文化の授業で学んだことなのですが、敬語には日本社会で大切にされている「ウチとソト」の概念が深くかかわっています。簡潔に言うと、日本語では敬語を使う対象が同じであっても状況によって尊敬語と謙譲語を使い分ける必要があるというような話です。私の記憶にある限りでは習ったことはなく、日本ではごく当たり前のことですが、英語で日本の敬語について検索すると必ず出てくる概念です。英語にも目上の人に Mr. を付けたり、I'm gonna を省略せずに I am going to と丁寧な言い回しをしたりするなどして相手への敬意を表す方法があります。しかし日本語では言葉そのものが変わることから、日本文化では相手への敬意を表すことがとても重要だと分かったと川村先生から教えていただきました。世界に出て日本を知るとい話は聞いたことがありましたが、まさにその通りだと感じました。

友人たちと訪れたクリーブランドのキャビンからの景色。エリー湖の向こうに見えるのはカナダ…？



International Mother Language Day  
プレゼンテーション

## 病院見学

福井県立大学看護学科から、2月中旬に7人の学生が約2週間のプログラムでフィンドレーを訪れました。医療施設や小学校を訪れたようで、私もそのプログラムの一環として行われた病院見学に参加しました。訪れたのは、Blanchard Valley Hospital です。ここは150床を有する急性期医療病院で、幅広い分野の医療を提供している地域の中核病院です。今回はそこで働く社会福祉士の方からお話を伺い、また病棟を見学させていただきました。全ての病室が個室であり、各部屋にはシャワーとトイレが設置されていました。またすべてのカルテにアクセスできるパソコンが一台ずつ設置されており、患者にも、医師や看護師にも負担が少ない病院だと感じました。また入院期間が日本と比べると短いことなどを知り、良い学びの機会でした。また、何よりも、病院の中をしっかりと見学させていただいたことで、医師を志すと決意した時の強い気持ちを思い出すことができたことをうれしく思います。

## Choir Concert Tour

今学期から履修し始めた Choir のプログラムで、春休みにヨーロッパへのコンサートツアーに参加しました。訪れたのは、チェコ、スロバキア、そしてオーストリアです。約1週間の滞在中、チェコで2回、スロバキアで1回のコンサートを行いました。コンサートは現地のいくつかの大学と合同で行われ、University of Hradec Králové の学生とは全3回のコンサートを共にしました。歌った曲は、“The Blue Bird”と“Little Birds”の鳥をテーマにした2曲や、“The Ground”といった賛美歌など、計8曲です。そして、コンサートの最後には、“Missa Festiva”と“I Sing Because I Am Happy”を、参加しているほかの大学の Choir と一緒に歌いました。また、コンサートの空き時間には約10人のグループのメンバーと一緒に食事をしたり、観光をしたりしました。どのコンサートもこれまでにないほど素晴らしく、立派な会場、たくさんの観客、そして美しい歌声がホールに響く空間はとても感動的でした。



2回目のコンサート  
Olomoucにて



オーストリアで見つ  
けた雑貨たち



オペラ鑑賞

このコンサートで良かった点は、現地の学生との交流ができたことです。特にチェコの University of Hradec Králové の学生とは長い時間を共に過ごし、一緒に食事をしたり街を歩き

回ったりする機会もありました。中には英語が苦手な学生もおり、私もよく気持ちが分かるため、お互いに一生懸命言いたいことを伝え合う中で一気に心の距離が縮まったように思いました。また、最後の夜にはウィーン国立歌劇場でオペラを見ました。演目はチャイコフスキーの『Eugen Onegin』です。マイクなしでも会場に響き渡る歌声と、きらびやかな衣装と舞台セットに圧倒されました。人生はじめてのオペラ鑑賞は素晴らしい体験でした。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 [nagaim@findlay.edu](mailto:nagaim@findlay.edu)